カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！
TEL 03（5950）1771

熱心な参加者の姿に元気をもらいました

２月４日（日）ワークショップ付きオープンキャンパスを振り返って

東京建築カレッジ
教務運営委員　山田　幸延（建築大工）

１年生の相談から

ことの始まりは在学中の第28期生（１年生）との会話のなかで「先生、建築カレッジの学習内容を宣伝するために、ワークショップ（参加者体験型イベント）をやりたいので協力してもらえませんか？」でした。「いいけれど予定が空いていたらね」と何気なく返事しましたが、まさかあのようになるとは思いませんでした。私は（同僚の先生方にも検討してもらい）筆箱や本棚などの工作を提案しましたが、その研修生は「継手や仕口をやりたい」と言ってきました。素人のような参加者に刃物を使わせる危うさから反対しましたが、少人数に限定することとし、２時間程度でできる課題として『大入れ蟻仕口（ありしぐち）』にしました。

予想超える参加人数

２週間程度と短い告知期間のため果たして応募がどれだけあるか、と思いましたが、蓋（ふた）を開ければ30人を超える申し込みがありました。当初ワークショップは20人までとしていましたが、締め切り間際に参加表明が殺到し、材料と道具をなんとか都合付けられる27人までワークショップに受け入れることにしました。その後も、数名の参加希望者があり、この方々はキャンセル待ちに。当日は雨天でしたので、結局27人の参加になり、希望者全員がワークショップに参加できました。

参加者の安全を考え、技術指導の応援を急きょ頼むことにしました。カレッジ指導員の岩佐俊光さん、東京土建「四方転び踏み台」入門講習会の担当講師、林陽一さんです。また、作業の見守りを、卒業生２人（第５期生、第24期生）と在校生

祝

「第32回　技能グランプリ」初出場で銀賞

本校卒業生（第21期生　髙田　慎太朗さん）

2月23日～26日まで北九州市で開催された「第32回　技能グランプリ」（厚生労働省、中央職業能力開発協会、一般社団法人全国技能士会連合会＝競技30職種）の「建築大工」で、第21期生の髙田慎太朗さんが第4位、銀賞を受賞しました。

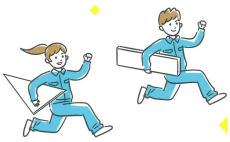
「技能グランプリ」は熟練技能者の日本一を競う大会。23歳までが出場資格の「技能五輪」の上位とされる競技大会。本校卒業生が出場するのは初めて。髙田さんは、2018年度の「第56回技能五輪沖縄大会」にも出場し、銅賞を受賞しています。

左写真＝競技課題「柱建て六角堂小屋組」と髙田さん

第29期生2024年度入学応募

まだ間に合います！

臨時の最終入学選考会を3月6日（水）に行います。応募対象者の情報を引き続きお寄せください。研修派遣を保障する就職先の紹介も可能な限り行います。情報はすぐに！ご相談はお気軽に！



建築カレッジの学びの魅力がもっと伝わる
授業の魅力体験型のオープンキャンパスへ

「蟻仕口のような工作はマニアックで参加希望者は少ないのでは」とカレッジ事務局では思っていましたが、日本の大工の手わざへの関心は高く、建築カレッジの宣伝に役立ちました。Instagramのフォロワー数は３倍になりました。
上の写真は作品完成後の記念写真。後列左端の男性はニューヨークの大工さん。日本の古民家を再生するために夫婦で移住、日本の木造建築を勉強中だそうです。

【表面から】（第28期生）４人にお願いしました。教室での学校説明会の時間もあり、設計製図系授業の紹介は長野智雄教務運営委員・講師（第４期生）が務めました。渡辺義久理事長にも終日立ち合っていただきました。

伝統技術に強い関心

参加者の年齢構成は60歳代から13歳の中学１年生（両親同伴）までと幅広く、日本在住の外国籍の方、大学教授（建築学科）、米国の大工もいました。両親と参加した中学生の男性は、私のカレッジ同期生の友人のお子さんで「大工仕事に興味がある」と話していました。

カレッジの授業と同じように、工程（墨付け、鑿〔のみ〕を使う加工、鋸〔のこぎり〕を使う加工）が進むごとに全体を一か所に集めて私が実演しながら、作業や道具の使い方の説明をしました。みなさん、私の実演の一つ一つ（墨差しの線のシャープさ〔参加者は鉛筆〕や蟻の加工の鑿、鋸の使い方）を理解しようと、食い入るように見ていました。積極的に質問してきて回答するのも大変でした。こういうところはカレッジ生にも見習ってほしいところです。心配していた怪我も無く、時間内に全員が完成できました。

「建築系の仕事をしていて金曜日を休むのが難しいが、休めたら入学したい」、「日本の大工技能はすごいのによく知られていない。もっとアピールするべき」、「次回があるならまた参加したい」、「初めてこのような学校があることを知った。入りたい人まだいると思う」といった感想を聞きました。

このイベントで得た直接の入学対象者は数名でしたが、カレッジの名前を広める場としての宣伝の効果は期待できると思いました。

技能継承に注力を

今回、特に感じたのは、外国の方たちが日本の文化や技術・技能（今回は大工技能でしたが伝統技能や町工場の技術などを含めて）に興味を持ち学ぼうとしていること、そして、私たちが思っている以上にその価値を高く評価をしていることでした。熱心で真面目な参加姿勢は心に残りました。日本の文化や技術・技能が外国で高い評価を受けた後に、初めて日本で評価される、そんな風潮がある、といいますが、そんなことでいいのかな、という感じもします。

今、建築業界だけを見ても、技能の継承がなかなかうまくいかず、各職種の技能者が少なくなっていますが、今回のイベントを通して大事なことを思い出しました。各職種の技能の魅力と値打ちを広く伝え、技能者の減少を防ぐにはカレッジの母体、東京土建の役割が重要、ということです。私は現在、東京土建江東支部の技術対策部長です。皆さん、ご一緒にがんばりましょう。

山田教務運営委員のガイドで「第28期実習棟」を見学する参加者（2月4日、江東実習場）。今回の経験を第30期生募集活動に生かします。

カレッジの授業

１年生（第28期生）は、実習棟の屋根、内法等に取り組む一方、構造力学実験の供試体づくりや各自の住宅設計プランの精査に取り組んでいます。ＪＷＣＡＤの演習も立面図が終わりました。

２年生（第27期生）は、卒業（修了）までの最後の大課題、卒業制作の追い込みです。3月9日（土）午後に発表会。プレゼンテーションも評価の対象です。◆